

# 運動遊びに着目した防災行動力の向上と多世代交流を促進する支援策の提言

立教大学松尾研究室 A

○明田川夏未

小村隼也

住吉洸征

土田達朗

## 1. 緒言

日本は 2011 年の東日本大震災をはじめ、地震およびそれに伴う二次災害の被害を受けている。災害による被害者を減らすためには、災害時において自分の身を自分で守る術を身に付けておかなければならない。しかし、既存の防災訓練は単発的なものになりやすく、長期的な視野で防災行動力を向上させることは難しい。特に体力の低い子どもや高齢者は「助けられる側」とみなされ、防災で主体となることは少ない。そこで、子どもや高齢者が主体となって、楽しみながら防災に対しての知識や災害時に自分や他人を守る術を身に付けることができる支援策を提言したい。防災を「運動遊び」という視点からとらえることにより、運動遊びを通して日常化を図るとともに、防災行動力の向上、多世代間の交流、地域振興といった様々な分野への効果を生むものとしていきたい。

## 2. 現状と課題

### 2.1 子どもと高齢者の「自助」の可能性への否定

災害時には行政による「公助」、自ら身を守る「自助」、住民、ボランティア、企業等を含めた助け合いの「共助」という 3 つの「助」が重要である。「自助」「共助」の取り組みは行政機能が低下する可能性のある大規模災害が発生した場合や、少子高齢化が進み地域防災力の低下がみられる場合に、ますます重要になると思われる。」(2012, 内閣府)しかし、体力の低い子どもや高齢者は災害時に「助けられる側」となりやすい。つまり「自助」の達成が難しい。

### 2.2 防災意識から行動力へ

国土交通省「国民意識調査」(平成 24 年 1 月末～2 月実施)において、「東日本大震災後の考え方の変化」について聞いたところ、「防災意識の高まり」が 52.0%で質問項目中、最多であり、東日本大震災という大災害により、人々の防災意識は高まったといえる。その一方で、東京都生活文化局が実施した「平成 23 年度第 4 回インターネット都政モニターアンケート」(平成 23 年 11 月 17 日)によれば、住民の防災に関する備えや取組に関して、「防災用品の準備」82.1%、「飲料水、食糧、生活必需品の準備」78.3%と高い数値であったが、「防災訓練への参加」はわずか 8.0%にとどまった。災害予防に対する意識は高いものの、災害への対処法を学ぶなどの取り組みはあまりなされていない。これらの結果から防災意識は高いが防災行動力は低いと考えられる。

### 3. 作業仮説

防災意識は高いのに、なぜ防災訓練への参加率は低いのか。既存の防災訓練に魅力を感じられないからではないだろうか。また、子どもや高齢者は「助けられる側」にいるため、主体となって取り組める訓練がほとんどないといえるのではないか。そこで、様々な防災訓練に「運動遊び」の要素を持たせ、子どもや高齢者が主体的に参加できる、魅力的な仕組みを考えるべきではないかと考えた。

### 4. 支援策のポイント

- ・運動遊びによる楽しい防災  
「運動遊び」×「防災」＝「遊ぼうさい」
- ・身に付けやすい段階に分け、防災行動力の向上を図る
- ・多世代交流  
子どもと高齢者の混合チームをつくる
- ・「防災士」の知識、技能の獲得を目指す

※防災士とは

「「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人のこと。」(2013, 日本防災士機構)

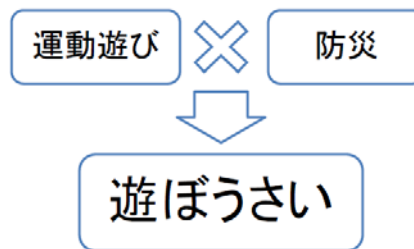


図1 「遊ぼうさい」モデル

### 5. 具体的な支援策

#### 5.1 「遊ぼうさい月間プログラム」の実施

小学生の夏休み期間である8月1日～8月31日を「遊ぼうさい月間」とし、朝の6:30～8:00に実施する。対象は小学生(保護者も含む)と高齢者とし、大学生サポーターや消防団も参加する。場所は小学校、公園、大学等のグラウンドや体育館を使用する。

#### 5.2 多世代交流

遊ぼうさい月間プログラムの一環として、地域で家が近い子どもと高齢者でグループをつくり、毎朝一緒に安全に集合場所まで向かうようにする。プログラムでは必ず子どもと高齢者を混合チームとし、チームで課題を解決することにより交流を図る。さらに、プログラムには大学生サポーターや保護者、消防団が参加する。これにより地域ぐるみの多世代交流を促進する。

#### 5.3 遊ぼうさい月間プログラムの作成

日本防災士機構「防災士」養成カリキュラムより6つの科目に則した種目を作成

##### ①いのちを自分で守る(自助)

「避難口脱出ゲーム」「障害物レース」「車いす体験」「避難所キャンプ」

②地域で活動する(共助・協働)

「バケツリレー」「火消しリレー」「土囊合戦」「遊ぼうさい運動会」

③災害発生のしくみを学ぶ(科学)

「防災かるた」「防災〇×クイズ」「防災グッズチョイスゲーム」「街の防災システムテスト」

④災害に関わる情報を知る(情報)

「伝言ゲーム」「情報収集ゲーム」「安否確認体験」「情報間違いさがし」

⑤減災や危機管理の手法を身につける(予防・復興)

「遊ぼうさいウォークラリー」「ハザードマップ作成」「ハザードマップ巡りウォーク」

⑥いのちを守る(救急)

「AED探し」「怪我人運びまっしょい」「応急処置レース」「心肺蘇生コンテスト」

以上の項目をふまえた運動遊びを、毎日のラジオ体操の後に遊ぼうさい月間運動プログラムとして取り入れる。日曜日には防災イベントを開催し、子どもたちの保護者も参加できるものとする。最終土曜日には「防災運動会」を開催し、防災月間の集大成とする。

表1 遊ぼうさい月間運動プログラム

	自助	地域活動	災害知識	情報	減災	救急法
1週目	避難口 脱出ゲーム	バケツ リレー	防災 かるた	伝言ゲーム	遊ぼうさい ウォーク ラリー	AED 探し
2週目	障害物 レース	火消し リレー	防災 〇×クイズ	情報収集 ゲーム	ハザード マップ 作成(1)	怪我人 運び まっしょい
3週目	車いす 体験	土囊合戦	防災グッズ チョイス ゲーム	安否確認 体験	ハザード マップ 作成(2)	応急処置 レース
4週目	避難所 キャンプ	遊ぼうさい 運動会	街の防災 システム テスト	情報間違い さがし	ハザード マップ巡り ウォーク	心肺蘇生 コンテスト

#### 5.4 「みんなの街を守り隊」認定

プログラムを修了した人には「みんなの街を守り隊」認定書を授与する。また、「みんなの街を守り隊」は地域の消防団活動に参加することにより、継続的に防災行動を続ける。

### 6. 支援策の推進体制

#### 【主体】

- ・消防団
- ・子ども会
- ・老人クラブ
- ・大学生サポーター

#### 【協力】

- ・スポーツ推進委員
- ・防災士
- ・消防署

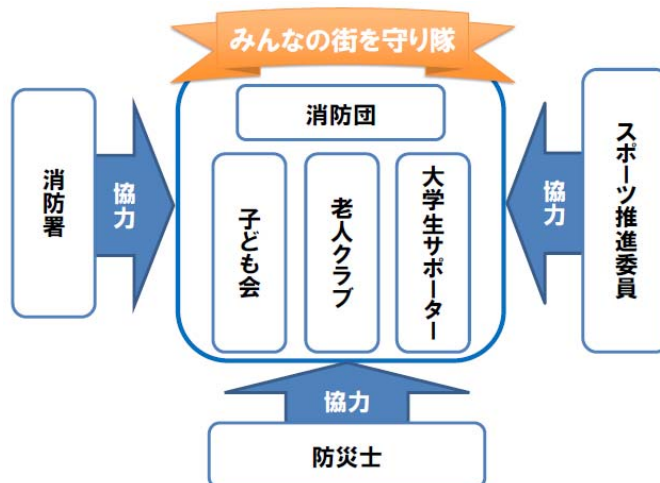


図2 推進体制

### 7. 期待される支援策の意義

- (1) 子どもと高齢者を中心とした地域ぐるみの多世代交流
- (2) 子どもと高齢者の「自助」の意識の向上
- (3) 子どもと高齢者に「自助」のスキルが身に付き、災害時の避難効率の向上
- (4) 運動遊びをすることで、楽しく防災の知識・技術・体力が身に付く
- (5) 「みんなの街を守り隊」の消防団活動への参加による防災行動の日常化

#### <資料・文献>

- ・国土交通省「国民意識調査」  
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h23/hakusho/h24/html/n1120000.html>  
(最終アクセス 2013/09/22)
- ・東京都生活文化局  
「平成23年度第4回インターネット都政モニターアンケート結果震災対策」  
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2011/11/601bh100.htm>  
(最終アクセス 2013/09/24)
- ・内閣府「平成24年度版防災白書」  
[http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/H24\\_honbun\\_1-4bu.pdf](http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/H24_honbun_1-4bu.pdf)  
(最終アクセス 2013/09/22)
- ・日本防災士機構 HP  
<http://bousaisi.jp/>  
(最終アクセス 2013/09/22)